
涙色の恋

宝月藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙色の恋

【Nコード】

N8093E

【作者名】

宝月藍

【あらすじ】

平凡な中学生、立花柚子の初恋物語。

第1話

1 出会い

これは、ヤバイ。

私、立花柚子は人生最大の危機に立っている。

この中間テスト、やば過ぎだよ。

国語、12点。数学、8点。理科、10点。社会3点。英語0点。

計33点。

追試は、間違いない。

追試より怖いもの。

母さんの、お説教。いい加減、こないだの期末も悪かった。お説教ほど怖いものは無い。

よし！ばあちゃんの所へ、逃げ込もう！

私は、ばあちゃんの入院している病院に向かった。

207号室、ばあちゃんの入院している病室。6人部屋。

「失礼します」

ドアを開けて右手側が、ばあちゃんのベットだった。

「ああ、柚子かい？よくきたねえ。」

「ばあちゃん」

なぜか、ほっとする。

「どうしたんだい？」

「えっ んっと、遊びに来たの」

「丁度良かった。柚子と、同じくらいの男の子がいるんだよ。」

同じくらいって言うと、私が中2だから、13歳か14歳ね。

ばあちゃんが指さした先には、色白の男の子がベットで本を読んでいた。

「かっこいい。」

これが、一般に言う、一目惚れ、というものののだろうか。
こんな気持ち、初めてだ。胸が、締め付けられるくらいときどきしている。

一目惚れなんて、本とか、漫画の中だけの事だと思っていた。
恋なんて、したことが無かった。

友達、みんなが好きな人がいて、私だけいなくてなんだか置いてけぼりにされていた。

でも、今は置いてけぼりにされてない。

私も、恋をしたんだ。

初恋を。

好きな人いない歴、13年。返上よ！

「えーっと 私、立花柚子。えーっと、よろしくね」

私は、その子に、いや、初恋の彼に声をかけた。

「僕は、小川優志。よろしく。立花さんの、お孫さんでしょ？」

「え？」

「やっぱり、あの人の言うとおりの人だ」

「なにが？」

「ううん、なんでもない」

小川君は、微笑をうかべた。

やっぱり、かっこいいな。

、今思えば、これが私と小川君の恋の始まりでもあり、悲劇の始まりだったのかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8093e/>

涙色の恋

2010年12月9日05時12分発行